

## 競技運営に関する注意事項

1. 本大会は、2024年度公認野球規則を適用する。
2. 大会要項及び本注意事項に定めた事項は、チーム全員に徹底すること。
3. ホームベースは、一般サイズを使用する。
4. 全試合6回戦のトーナメント方式とする。また、試合開始後1時間30分を経過した場合、新しいイニングに入らない。均等回完了をもって試合を決する。
5. タイブレイク方式及び、特別継続試合は、連盟特別規則による。
  - ① 6回を完了して同点の場合または、試合開始後1時間30分を経過し同点の場合は、直ちにタイブレイク方式で試合を決する。ただし、6回完了時は9回まで、1時間30分経過後は3イニングを完了しても決着がつかない場合は、抽選で勝敗を決定する。決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守のうえ、勝敗が決するまでタイブレイク方式を続行する。タイブレイク方式は、連盟特別規則による継続打順で、無死1・2塁で行う。なお、各塁に位置する走者は、背番号をバックネット方向に向け、本部及び記録員の確認を受ける。
6. 1人の投手の投球は、1日70球以内（小学4年生以下は60球以内）とする。試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
7. 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。
8. 申告故意四球は、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁（が与えられる。）へ進むことが許される。

※申告故意四球の確認事項

  - ① 打撃中に投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。
  - ② 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
  - ③ 申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントしない。
  - ④ 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠の申告を受ける。
  - ⑤ 投手が交代した最初の打者が申告により敬遠で一塁に進んだ場合、投手は一人の打者と対戦したとみなされ交代することができるようになる。
  - ⑥ 申告故意四球により敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。
9. 守備タイムは、6イニングで3回、延長は1イニングで1回とする。

※監督の投手交代は除く。

※タイム中でなくても、マウンドに2人以上集まれば1回のタイムとカウント。

※攻撃タイムは、6イニングで3回。（守備タイム内であればカウントしない）
10. 大会出場チームの意匠は、次のことを留意すること。
  - ① ユニフォーム、アンダーシャツ、帽子は全員同じものであること。ただし連合チームはそれぞれのユニフォームを着用することができる。
  - ② 左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。
11. ベンチサイドは、組合せ番号の若い方を一塁側とし、決勝戦まで適用する。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしないことがある。
12. シートノックは、原則として行わない。
13. 球場内ではトスパッティングのみ認める。
14. ベンチに入れる人員は、ユニフォームを着用した監督30番、コーチ28番・29番及び選手25名以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）各1名とする。ただし、監督及びコーチは20歳以上でなければならない。熱中症対策として保護者2名までベンチにはいることができる。
15. 打順表は、会場到着後に大会本部から受領すること。
16. 打順表の提出は、その日の第1試合開始予定の30分前までに、参加届に記載のある選手全員を記入のうえ、本部へ6部提出し、攻守を決定する。女子選手は、背番号に○印を付けること。4年生以下は、背番号欄右下に学年を記入すること。第2試合以降は、前の試合の3回終了時に行う。3回終了前に試合が終了し

た場合は、大会本部の決定した時刻による。記載が終了したら、参加届との照合のため時間を待たずに大会本部に持参すること。

17. 試合開始時刻になっても、会場に到着していないチームは原則、棄権とする。
18. 第二試合以降は試合開始予定時刻前であっても、前の試合終了後 20 分を目安に次ぎの試合を開始する。
19. 雨天でも試合を執行する場合もあるので、必ず本部の指示を仰ぐこと。  
※正式試合…5 回とする。  
※得点差によるコールドゲームの適用は 5 回を終了して、7 点差が生じた場合。
20. 次ぎの事項は、特に注意すること。
  - ① 投手であっても次打者席に必ず入ること。
  - ② ベンチでのメガホン使用は、指示用 1 個とする。又、電子機器類（携帯電話、パソコン等）の使用は禁止するが、電子スコア記録用として 1 台は認める。
  - ③ グラウンド内のファールボールは、両チームで担当しボールパーソンに渡すこと。
  - ④ 試合が終了したチームは、次ぎの試合のグラウンド整備に協力すること。
  - ⑤ 攻守交替時最終ボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
  - ⑥ 練習中であってもユニフォームを着用しない者は、グラウンドに入ることは出来ない。
  - ⑦ 試合が開始されたら、控え選手はむやみにベンチから出てはならない。投手の準備投球に合わせて素振りをするを禁止する。ただし、次のことは認める。攻守交代時にファウルグラウンドで外野方向へランニングすること、自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし球審の「プレイ」の宣告までにはベンチに戻る。攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。
  - ⑧ 次打者席ではプレー及び打球に注視して待機すること。投球に合わせて素振りをしてはならない。また、次打者席でのマスコットバット等の使用は、プレーに支障の無いよう適切に処理すること。
  - ⑨ 危険防止のため走者による足を高く上げてのスライディングや野手の空タッグは禁止する。
  - ⑩ プレーヤーが塁上で腰を下ろすことは禁止する。
  - ⑪ 打順表交換（3 回終了時）後のブルペン使用は、先発バッテリー 1 組とする。
  - ⑫ 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールは認める。ブルペンは、2 組 4 名以内を認める。
  - ⑬ 選手や審判に対する聞き苦し野次等は、禁止する。（競技者必携 P.12 [ヤジ撲滅運動展開中]）
  - ⑭ ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。
  - ⑮ 試合のスピードアップには、全員で励行のこと。
  - ⑯ 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きい声を発しないこと。
  - ⑰ 抗議は、監督か当該プレーヤーのいずれか 1 名とする。
  - ⑱ 打者走者は、本塁・一塁間後半の、スリーフットライン内を走ること。
  - ⑲ ロージンバックは、投手板後方の打者の視野に入らない位置に置き、手に持たず指に触れる程度に使用する。
  - ⑳ 競技場内に、ダートサークルを設けることとし、その意味を理解すること。
  - ㉑ 捕手及びブルペン捕手は、プロテクター、レガーズ、マスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメット及びファウルカップを必ず着用すること。なお、攻守交代時等に伴い捕手が用具着用中に、控えの選手等が準備投球を捕球する際は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること（出場中の内野手可）
  - ㉒ 捕手用マスクの SG 基準合格品の着用は 2025 年より義務付けとなるものであり、2024 年は猶予期間となる。
  - ㉓ 少人数チームの場合、コーチが攻守交代時（捕手が用具着用中）に準備投球を受けること及び試合中にブルペンで投球を受けることを許可する。（マスク着用が望ましい。）ただし、岩手県での大会でのみ認められている特例であることから東北大会以上では認められないことを理解すること。
21. 監督・コーチ・選手のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子は、全員同色、同意匠のものであること。ただし、連合チームはそれぞれの所属チームのユニフォームを着用して出場できる。
22. 雨天の際は、午前 7 時に実施の可否を判断するので、それ以降に、会場責任者に必ず確認すること。
23. その他、記載のない事項については、2024 競技者必携に準ずる。